

1. 実況上の着目点

① 日本付近は500hPa リッジ場に入り、朝鮮半島付近や沿海州に中心を持つ高気圧におおわれている。21 時高層観測では、稚内・札幌で850hPa-6℃以下が観測され、東北から西日本にかけて、850hPa では平年より2～4℃低い0℃前後の気温が観測されており、弱い寒気移流場が継続している。衛星赤外面像では日本海上に広く下層寒気に伴う対流雲が見られるが、日本海沿岸の高層観測では800hPa 付近に沈降性逆転層が見られ、対流雲の発達を抑えられている。

- ② 静岡県沿岸から南には、地上北東風と北西風のシアラインがのびている。この海域では海面水温が22℃となっており、500hPa-21℃の寒気とともに対流雲が発達して、発雷を検知している。対馬海峡付近の500hPa5640m 付近のトラフが15 日朝には東海道沖に進み、対流雲の発達しやすい場となるが、次第に北東風が卓越しシアラインが不明瞭になるため、対流雲の発達は海上主体と考える。東海沿岸では対流雲の動向に留意。
- ③ 北日本から東日本の太平洋沿岸は気圧の傾きがやや大きく、やや強い風が吹き、関東沿岸から伊豆諸島では2.5～3m の高波となっている。15 日は高気圧におおわれて風も弱まり、高波も次第に収まる。
- ④ 沖縄本島地方の近海では、地上北東風と東風の収束場で対流雲が発達。激しい雨を解析。

2. 主要じょう乱の予想根拠と解説上の留意点

① 15 日から16 日前半は日本付近は地上高気圧におおわれる見込み。15 日夜から16 日にかけて、500hPa5160m 付近の寒冷渦がアムール川中流から下流に東進し、寒冷渦南の5400m 付近トラフに対応して、16 日朝に間宮海峡付近に前線を伴った低気圧が発生する。低気圧は発達しながら16 日夜にはサハリン付近に進み、低気圧からのびる寒冷前線が16 日夜には北海道から東北を通り、能登半島沖に達する見込み。前線が通過時の北海道では、850hPa0℃前後の暖気と500hPa-24℃以下の寒気が流れ込むため、大気の状態が不安定となる。北日本では16 日は落雷や突風に注意。また、前線接近時には南西風が、通過後は西寄りの風が強まる見込み。強風や高波にも注意。北海道は16 日夜には850hPa で-6℃以下の寒気が流入し、平地でも雪となる所がある見込み。

② 500hPa5760m 付近の強風軸に対応して、15 日夜に華中に前線が形成され、16 日にかけて東シナ海にのびだす見込み。850hPa9～12℃を目安に予想している。

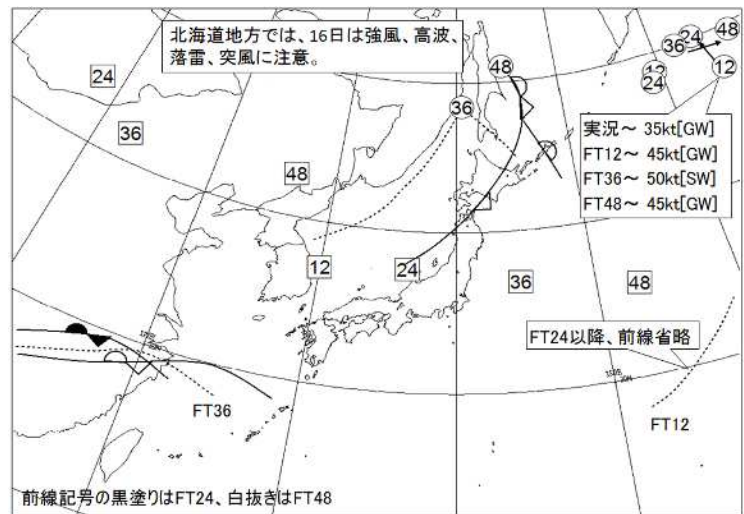
3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場は最新 GSM を基本とする。ただし、2 項②の前線は GSM より南側に予想する。日本の降水分布・量予想は MSM を参考とする。

4. 防災関連事項[量的予報と根拠]

- ① 大雨ポテンシャル(06 時からの24 時間)：高い所(100mm 以上)はない。
- ② 波浪(明日まで)：伊豆諸島3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表予定なし。



主要じょう乱解説図